



今週の T2 経済レポート

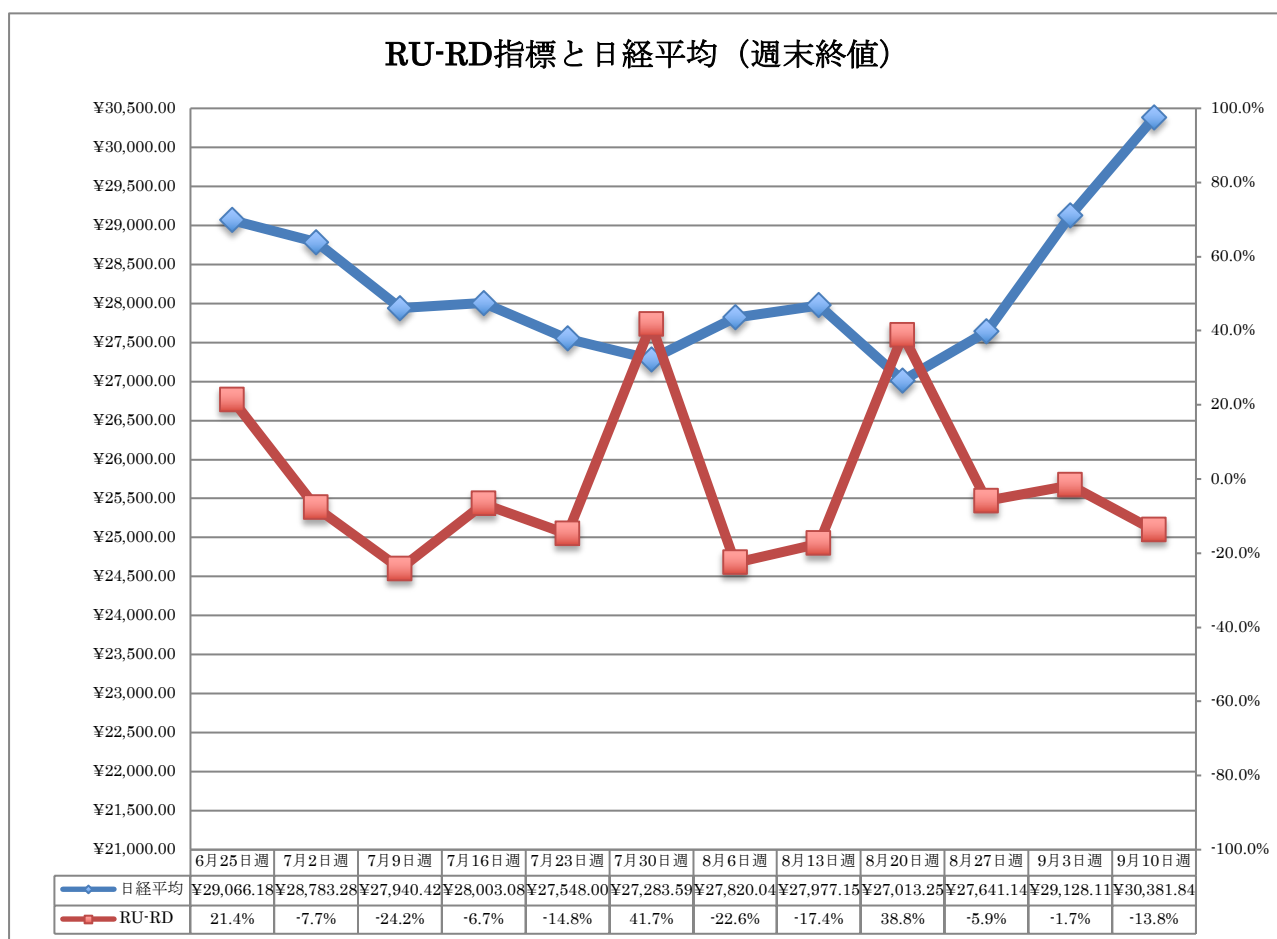
2021年9月10日号

■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来は軟調相場が予想される週となりそうです。今週(9/6~9/10)の相場を占う『RU-RD 指標』の8月27日週が-13.8%と3週連続マイナス圏に陥ったことで本来は軟調相場の継続が予想されます。ただ来週(9/13~9/17)の相場を占う9月3日週が+66.0%と4週間振りにプラス圏、かつ7月12日週以来となる上限ゾーンへの一気の上昇で本来は急反発が予想されます。5月3日週~5月17日週の3週連続マイナス圏、6月14日週~7月5日週の4週連続マイナス圏、8月9日週~8月23日週の3週連続マイナス圏とここに来て下向きの方向感が頻繁に現れ、下落しやすいかたちとなっていました。先週は8月31日に月末最終営業日の株安アノマリーを意識した売り方を崩すような後場からの買い仕掛けに加え、菅首相が自民党総裁選に不出馬との報道から本来は衆議院選挙から始まる「選挙相場」が早めにスタートしたかたちです。今週末10日にメジャーSQを控え、投機筋の外国人が早めにスタートした「選挙相場」を利用して買い戻しの相場操縦を仕掛けた可能性があります。今後は通常と異なる今回の「選挙相場」がどのようなかたちで継続するのかが今後の相場を占う上で重要になります。特に、今年は「20世紀の重要日8.15」にタリバンがアフガン制圧が起きたことから「21世紀の重要日9.11」までは注意すべき時間帯が続くという認識が必要です。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が21年7月2日週-4.3%→7月9日週-11.4%→7月16日週-2.9%→7月23日週-17.1%→7月30日週-28.6%→8月6日週+2.9%→8月13日週+4.3%→8月20日週-7.1%→8月27日週-24.3%→9月3日週+14.3%と、3週間振りにプラス圏に急浮上しています。先週は「選挙相場」を利用した売り方の買い戻しを狙った買い仕掛けで急反発となりましたが、何度も『無駄な買い支えをまだするかもしれませんが、注目は同指標が「-40%以下の下限ゾーン」にいつ陥るのかの一点に移っています。』と指摘してきたように、株価の底入れ途中で株価操縦で急反発したと考えられます。同指標が「-40%以下の下限ゾーン」に落ち込まないと株価の底打ちはないとの認識が必要であり、今回の「選挙相場」が終了すると再び、下落する近未来が待っていることを忘れないことです。

今週は、経済指標では、国内は、7日に7月家計調査、7月景気動向指数、8日に4-6月期GDP確報値、8月景気ウォッチャー調査、9日に8月東京オフィス空室率、8月工作機械受注、一方海外で、7日に中国8月貿易収支、独9月ZEW景況感指数、8日に米地区連銀経済報告(ベージュブック)、9日に中国8月生産者物価指数、中国8月消費者物価指数、10日に米8月生産者物価指数(PPI)などが予定されています。9月10日発表の米8月生産者物価コア指数(コアPPI)は前年比+6.6%と予想され、7月実績6.2%を上回る見込みでインフレ進行の思惑が強まりそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、10日にメジャーSQ、12日に東京など21都道府県に発令中の緊急事態宣言の期限、一方海外は、6日に米株式市場は祝日のため休場(レーバーデー)、米・失業保険の上乗せ給付期限切れ、9日にECB定例理事会、11日に米同時多発テロから20年、などが注目されます。」とコメントしました。



8月20日週	8月27日週	9月3日週	9月10日週
¥27,013.25	¥27,641.14	¥29,128.11	¥30,381.84
38.8%	-5.9%	-1.7%	-13.8%

先週の日経平均は、高値 30381 円(9 月 10 日)・安値 29469 円(9 月 6 日)と推移、3 週連続で前半・後半高の強いかたち。先週は、前の週末に発表された 8 月米雇用統計の非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を大幅に下回りましたが、我が国の次期政権の経済対策への期待や東京都での新型コロナウイルス新規感染者数の前週比減少、さらに週末の先物・オプション 9 月物の特別清算指数算出(メジャーSQ)に向けた買い上げから上値目標値を上回り、週間ベースで+1253 円高と急反発が継続、3 週間で+3368 円幅の爆上げとなり 2 月 19 日週以来となる 30000 円大台を終値で回復して終了しています(先週予告していた上値メド 28846 円~29422 円(+2%かい離)//下値メド 28048 円~27487 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えて、9 月 8 日までに 30500 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。31000 円大台替えて仕切り直し、逆に、29500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えては、9 月 6 日までに 30000 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。31000 円大台替えて仕切り直し、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、8 月に 28000 円大台替えて仕切り直しが入り、9 月に 29000 円大台替えてカウントダウンの上昇局面入りに 1 ヶ月、9 月に 30000 円大台替えてカウントダウン継続に 0 ヶ月、従って、今月末までに 31000 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、29000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期↑となり、長期の強含みはまた続いています。短期・中期の方向感がなくなり乱高下しやすいかたちに変化しました。本来、衆議院選挙公示から「選挙相場」が始まりますが、9 月 3 日の菅首相総裁選辞退で「選挙相場」を早めに織り込みに入っているかたちですが、実際は投機筋の外国人が先週末のメジャーSQ のために「選挙相場」を利用して買い仕掛けをしかけたかたちです。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 35373 ドル(9 月 7 日)・安値 34599 ドル(9 月 10 日)と推移、2 週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、9 月 8 日発表の 7 月米 JOLT 求人件数が過去最高を記録する一方、新型コロナウイルスの感染再拡大などの影響で米国経済の減速が警戒され、また 10 日発表された 8 月米生産者物価指数(PPI)が前年比+8.3%、同コア指数が前年比+6.7%と上昇率は比較可能な 2010 年 11 月以降で最高を記録し、「インフレは一過性」との FRB の見方が揺らぎ始めていることから下値目標値を達成、週間ベースで-762ドル安と2週連続安で終了しています(先週予告していた上値メド 35801 ドル~36517 ドル(+2%かい離)//下値メド 35155 ドル~34451 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えて、7 月 26 日までに 35500 ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、実現せず時間切れ。36000 ドル大台替えて仕切り直し、逆に、34500 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、7 月 23 日に 35000 ドル大台替えて仕切り直しが入りました。36000 ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、34000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、7 月に 35000 ドル大台替えて仕切り直しが入りました。36000 ドル大台替えてカウント

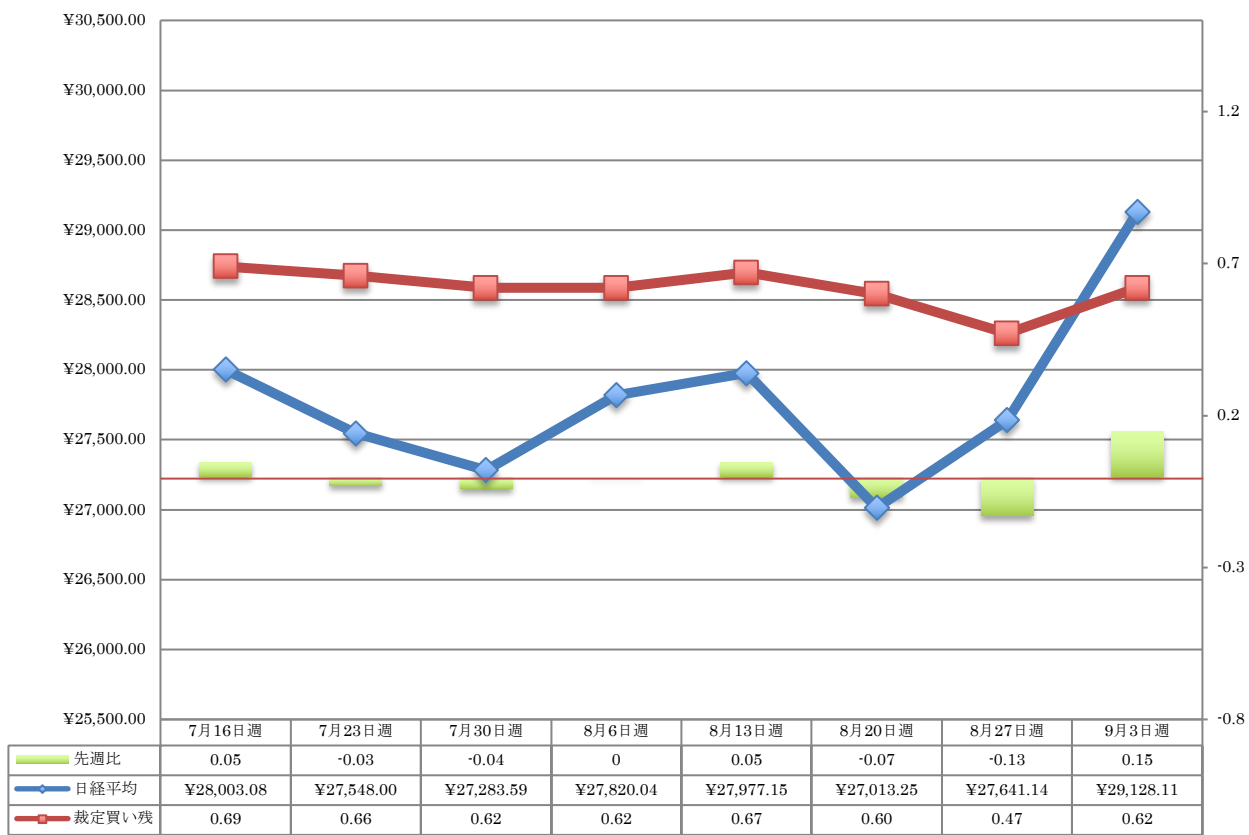
ダウンの上昇局面、逆に、34000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、中長期の強含みは変わりませんが、短期の方向感が無くなったことで、目先は乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が 110.44 円～109.61 円(先週予告していた上値メド 110.57 円～111.67 円(+1%かい離)//下値メド 109.58 円～108.48 円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しませんでした。実質 3 週連続で円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.1886～1.1800(先週予告していた上値メド 1.1916～1.2035(+1%かい離)//下値メド 1.1789～1.1671(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しませんでした。実質 3 週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、130.69 円～129.63 円(先週予告していた上値メド 131.04 円～132.35 円(+1%かい離)//下値メド 129.52 円～128.22 円(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しませんでした。実質 3 週連続の円安・ユーロ高。前の週のユーロ>ドル>円が実質 3 週連続で継続、つまり、実質 3 週連続でユーロ高への修正が継続したかたちです。欧州中央銀行(ECB)は 9 月 9 日開催の理事会でパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の債券購入ペースを 10-12 月期に減速することを決定しましたが、ラガルド ECB 総裁は記者会見で「景気支援の段階的な縮小を意図していない」との見方を伝え、一定規模の緩和策は長期間維持されるとの見方が強まり、リスク選好的なユーロ買いは縮小する一方、米国のインフレ関連指標が市場予想を上回り、ユーロ売り・米ドル買いとなりましたがレンジ内の中途半端な週となっています。

<裁定買い残・裁定売り残>

3 週間振りに増加。前の週は 7 週間振りの 1000 億円台の減少に対し、今週は 12 週間振りに 1000 億円台の増加と真逆の売買となっています。一時、6 週連続で 1500 億円～約 7000 億円の巨額の増減を毎週、繰り返す異常な現象が続き「ブロック取引」が行われ、ヘッジファンドなどの精算に伴う処理が行われていた可能性を指摘しましたが、再び、このような巨額な増減に発展するようだと注意が必要です。一方、「裁定売り残」は、前の週比+1594 億円の 2503 億円と 6 週間振りに増加。前の週に 6 月 7 日週以来となる 3000 億円台の減少となり、水準は 17 年 6 月 19 日週以来、1000 億円割れとなっていました。昨年のコロナショック以降、「裁定売り残」の縮小と日経平均は連動していることから、いつ本格的な売り崩しに進むのを見極める段階です。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

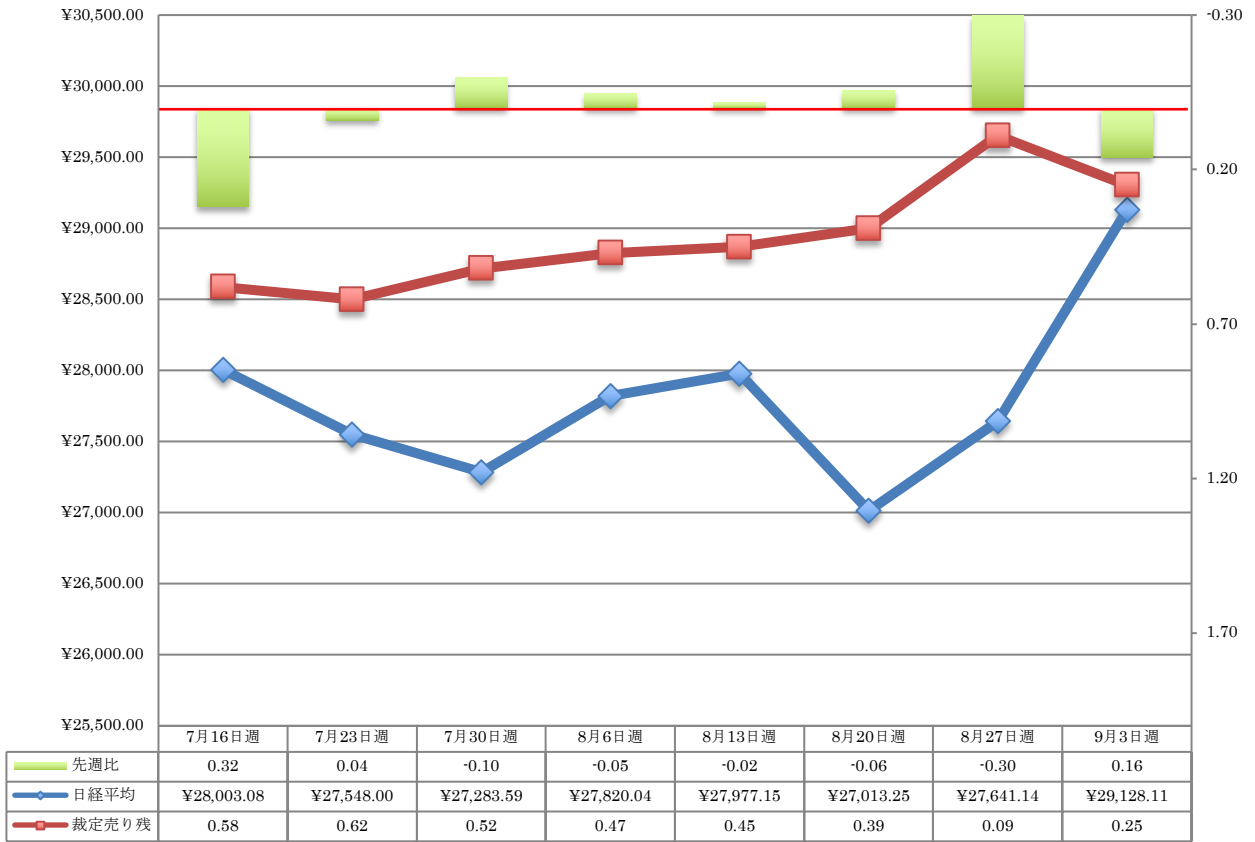
裁定買い残と先週比



8月13日週	8月20日週	8月27日週	9月3日週
¥27,977.15	¥27,013.25	¥27,641.14	¥29,128.11
0.67	0.6	0.47	0.62
0.05	-0.07	-0.13	0.15

単位:兆円

裁定売り残と先週比



8月13日週	8月20日週	8月27日週	9月3日週
¥27,977.15	¥27,013.25	¥27,641.14	¥29,128.11
0.45	0.39	0.09	0.25
-0.02	-0.06	-0.30	0.16

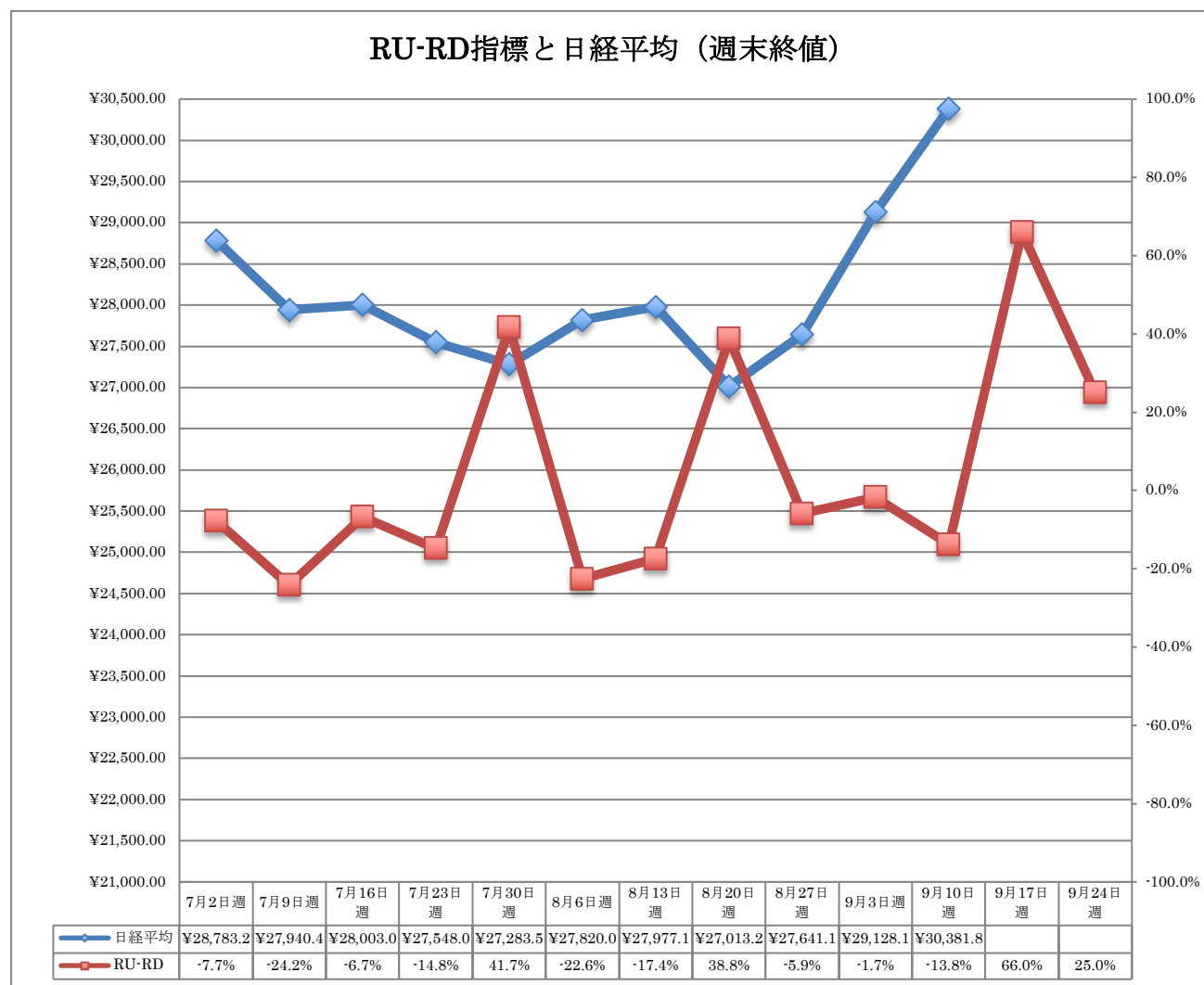
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は本来は急反発が予想される週ですが、本来下落すべき前の週まで逆に、急騰したことでその可能性は低くなったかたちです。今週(9/13~9/17)の相場を占う『RU-RD 指標』の9月3日週が+66.0%と4週間振りにプラス圏、かつ7月12日週以来となる上限ゾーンへ一気の上昇となっていることから本来は急反発が予想されます。また来週(9/20~9/24)の相場を占う9月3日週が+25.0%と2週連続プラス圏となり本来であれば強含みで推移しそうです。ただ、本来、急落すべき過去2週間、逆に前の週末のメジャーSQに向けた先物の買い上げでその可能性はなくなったのではないかと思います。5月3日週~5月17日週の3週連続マイナス圏、6月14日週~7月5日週の4週連続マイナス圏、8月9日週~8月23日週の3週連続マイナス圏とここに来て下向きの方向感が頻繁に現れ、下落しやすいかたちとなっていました。8月31日に月末最終営業日の株安アノマリーを意識した売り方を崩すような後場からの買い仕掛けに始まり、9月3日に菅首相の自民党総裁選不出馬表明から本来は衆議院選挙から始まる「選挙相場」が早めにスタートしたかたちです。前の週は週末10日にメジャーSQを控え、投機筋の外国人が早めにスタートした「選挙相場」を利用して「空売り」の買い戻しを行わせる相場操縦を仕掛けた可能性あり、8月23日週~9月6日週の3週間で+3368円の爆上げがそれを証明しています。今後は通常と異なる今回の「選挙相場」がどのようなかたちで継続・終焉するのかが今後の相場を占う上で重要になります。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が21年7月2日週-4.3%→7月9日週-11.4%→7月16日週-2.9%→7月23日週-17.1%→7月30日週-28.6%→8月6日週+2.9%→8月13日週+4.3%→8月20日週-7.1%→8月27日週-24.3%→9月3日週+14.3%→9月10日週+50.0%と、2週連続プラス圏に急浮上、かつ3月15日週47.1%以来となる上限ゾーンまでの一気の上昇となっています。「選挙相場」を利用した売り方の買い戻しを狙った買い仕掛けで急反発となりましたが、同指標を見ても株価の底入れ途中にして株価操縦で急反発したかたちとなっています。同指標が「-40%以下の下限ゾーン」に落ち込まないと株価の底打ちはないとの認識が必要であり、今回の「選挙相場」が終了すると再び、下落する近未来が待っていることを忘れないことです。また前の週末に急落したNYダウのT2レーティングが21年7月2日週以来、2ヶ月振りに売り転換となったことには注意が必要です。この時は2日間で1000ドル安の急落が7月中旬に発生しているためです。

今週は、経済指標では、国内は、13日に7-9月期法人企業景気予測調査、8月企業物価指数、15日に7月機械受注、16日に8月貿易収支、9月月例経済報告、一方海外で、13日に米8月財政収支、14日に米8月消費者物価指数(CPI)、15日に中国8月鉱工業生産、中国8月小売売上高、米9月ニューヨーク連銀景気指数、米8月鉱工業生産、16日に米8月小売売上高、米9月フィラデルフィア連銀景気指数、17日に米9月ミシガン大学消費者信頼感指数などが予定されています。14日発表の米8月消費者物価コア指数(コアCPI)は7月の前年比+4.3%と同水準となる可

能性があり、FRB のインフレ高進は一時的との公式見解が疑問視される可能性があります。また、16日発表の8月小売売上高は7月実績の前月比-1.1%との比較でやや改善する見込みですが、前月比プラスとなる可能性は低いと市場予想は見込んでいます。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、17日に自民党総裁選告示となり注目されます。



9月3日週	9月10日週	9月17日週	9月24日週
¥29,128.11	¥30,381.84		
-1.70%	-13.80%	66.00%	25.00%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 31012 円～31632 円 (+2%かい離)

下値メド 29778 円～29184 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 35161 ドル～35864 ドル (+2%かい離)

下値メド 34872 ドル～34174 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 110.53 円～111.63 円 (+1%かい離)

下値メド 109.68 円～108.58 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1953～1.2072 (+1%かい離)

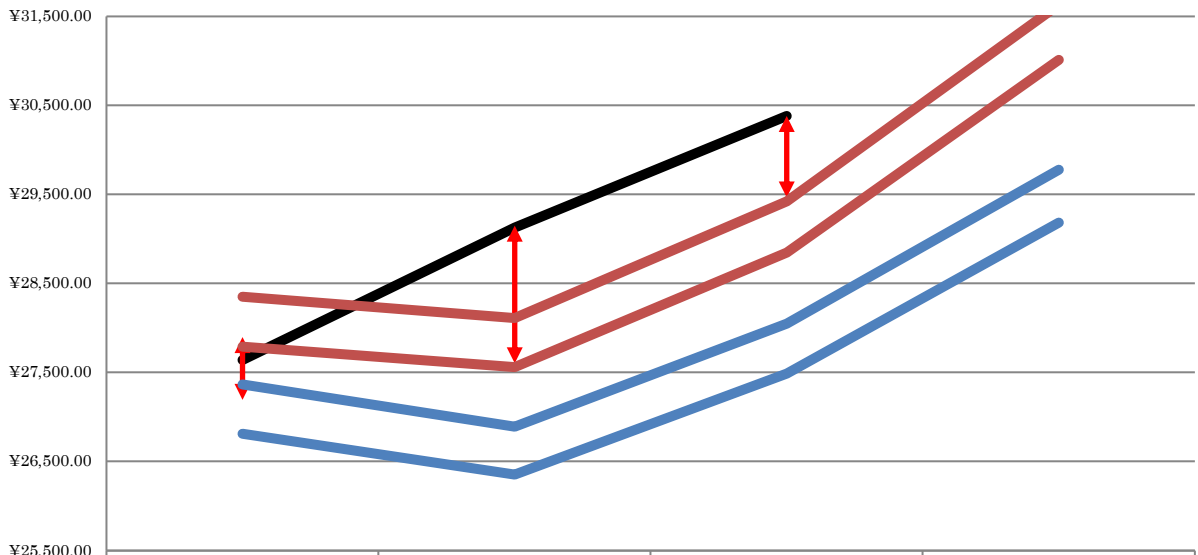
下値メド 1.1833～1.1714 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メド 131.40 円～132.71 円 (+1%かい離)

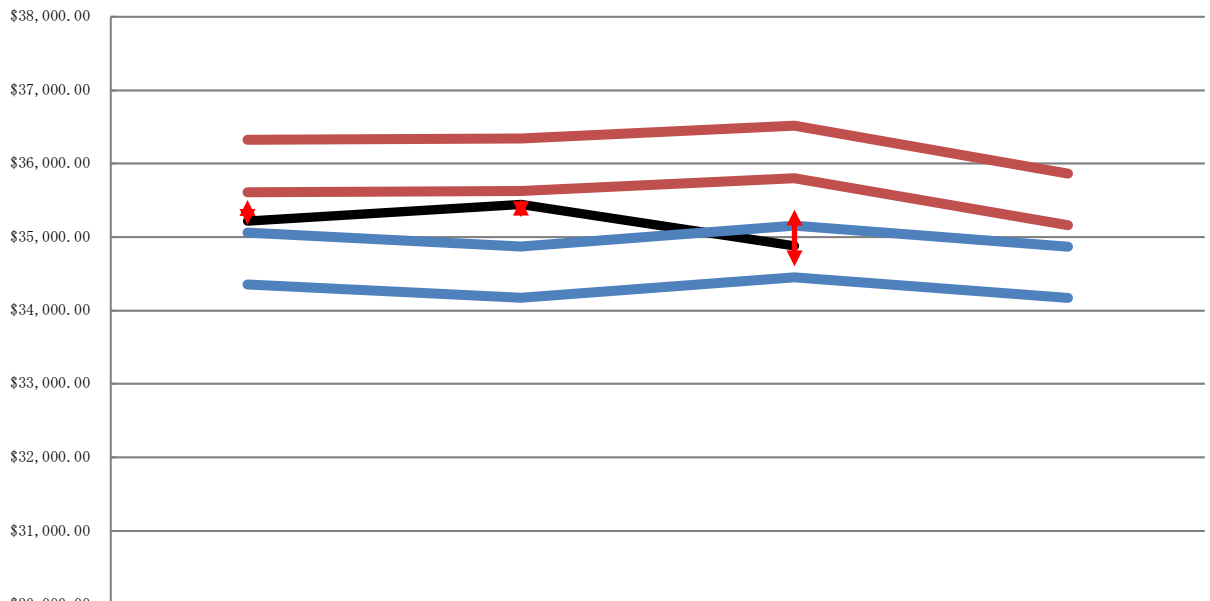
下値メド 130.00 円～128.70 円 (-1%かい離)

日経平均



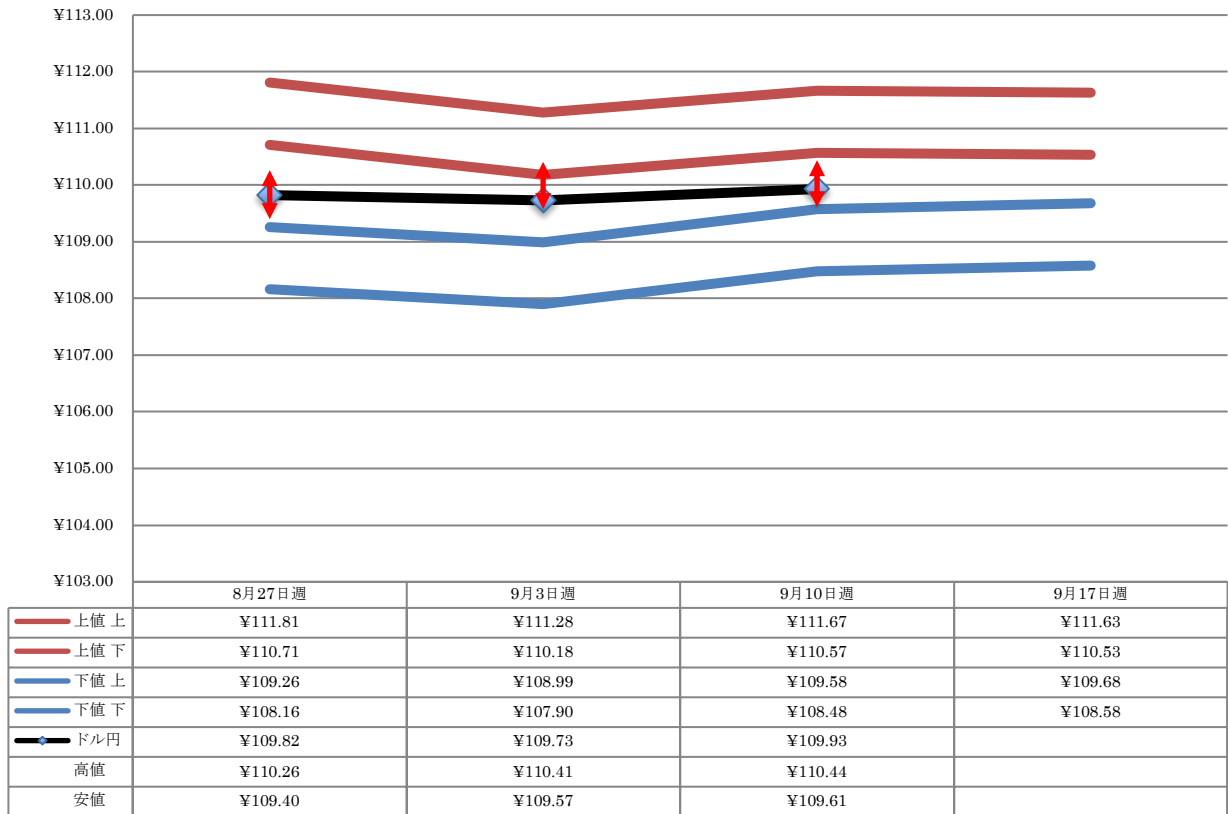
	8月27日週	9月3日週	9月10日週	9月17日週
— 日経平均	¥27,641.14	¥29,128.11	¥30,381.84	
— 高値	¥27,897.72	¥29,149.65	¥30,381.84	
— 安値	¥27,193.10	¥27,602.21	¥29,469.35	
— 上値 上	¥28,348	¥28,112	¥29,422	¥31,632
— 上値 下	¥27,793	¥27,561	¥28,846	¥31,012
— 下値 上	¥27,363	¥26,892	¥28,048	¥29,778
— 下値 下	¥26,815	¥26,354	¥27,487	¥29,184

NYダウ

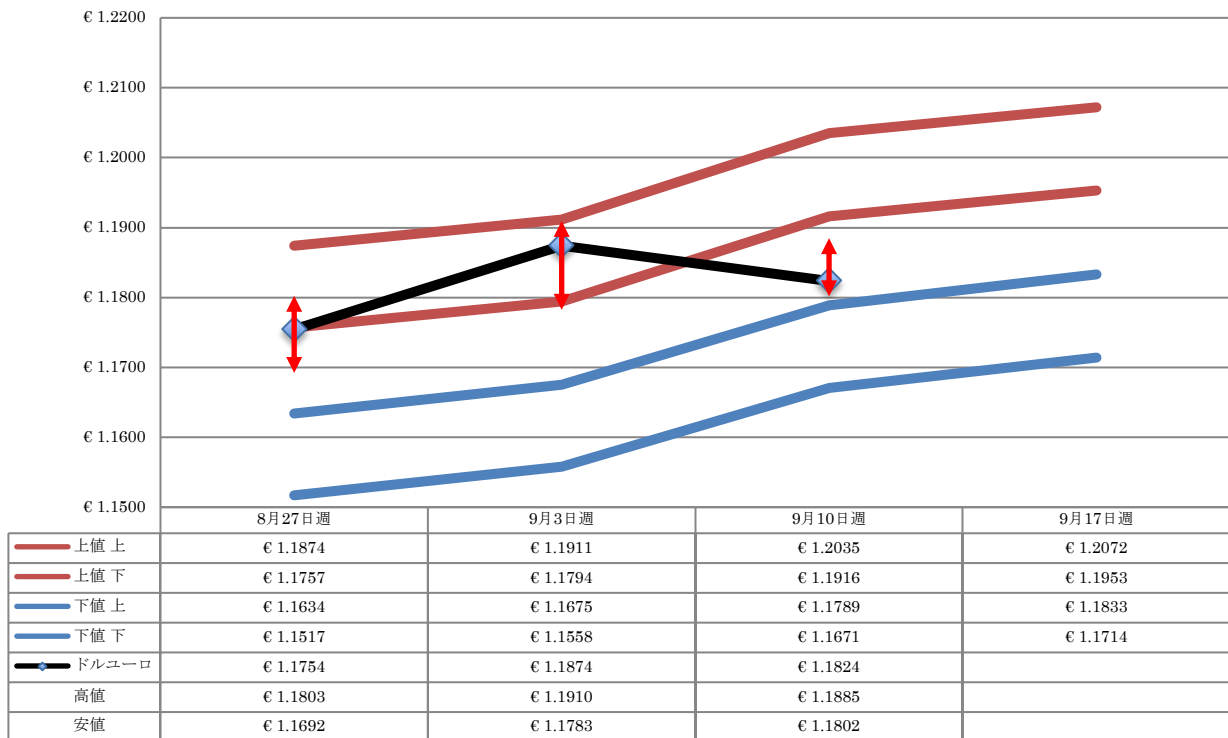


	8月27日週	9月3日週	9月10日週	9月17日週
— NYダウ	\$35,213.12	\$35,443.82	\$34,879.38	
— 上値 上	\$36,322	\$36,340	\$36,517	\$35,864
— 上値 下	\$35,610	\$35,628	\$35,801	\$35,161
— 下値 上	\$35,057	\$34,871	\$35,155	\$34,872
— 下値 下	\$34,355	\$34,173	\$34,451	\$34,174
— 高値	\$35,501.14	\$35,510.71	\$35,373.24	
— 安値	\$35,160.97	\$35,269.40	\$34,599.61	

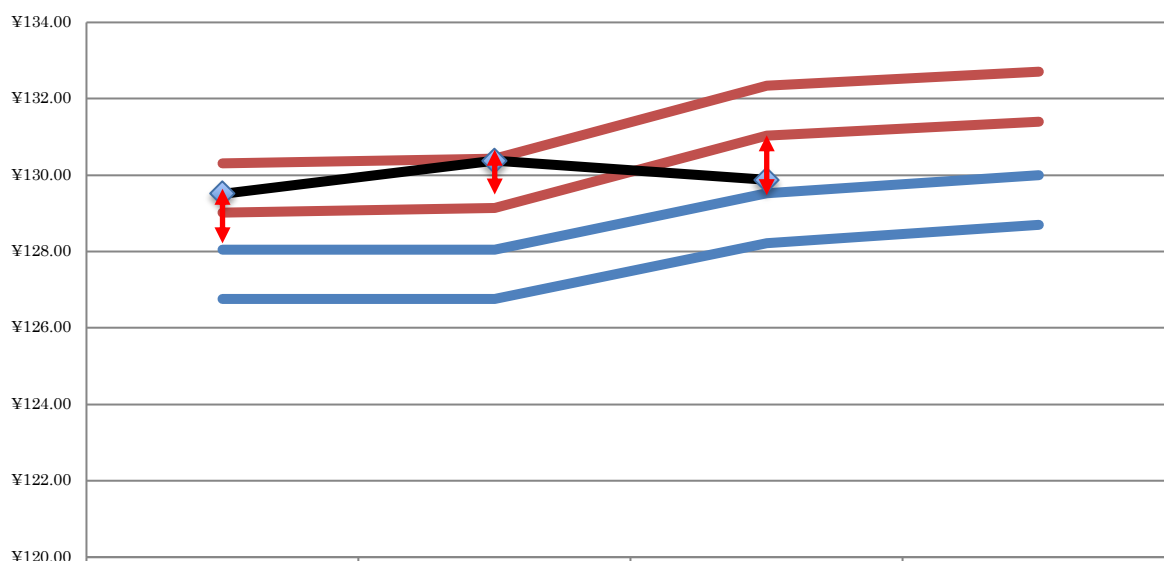
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

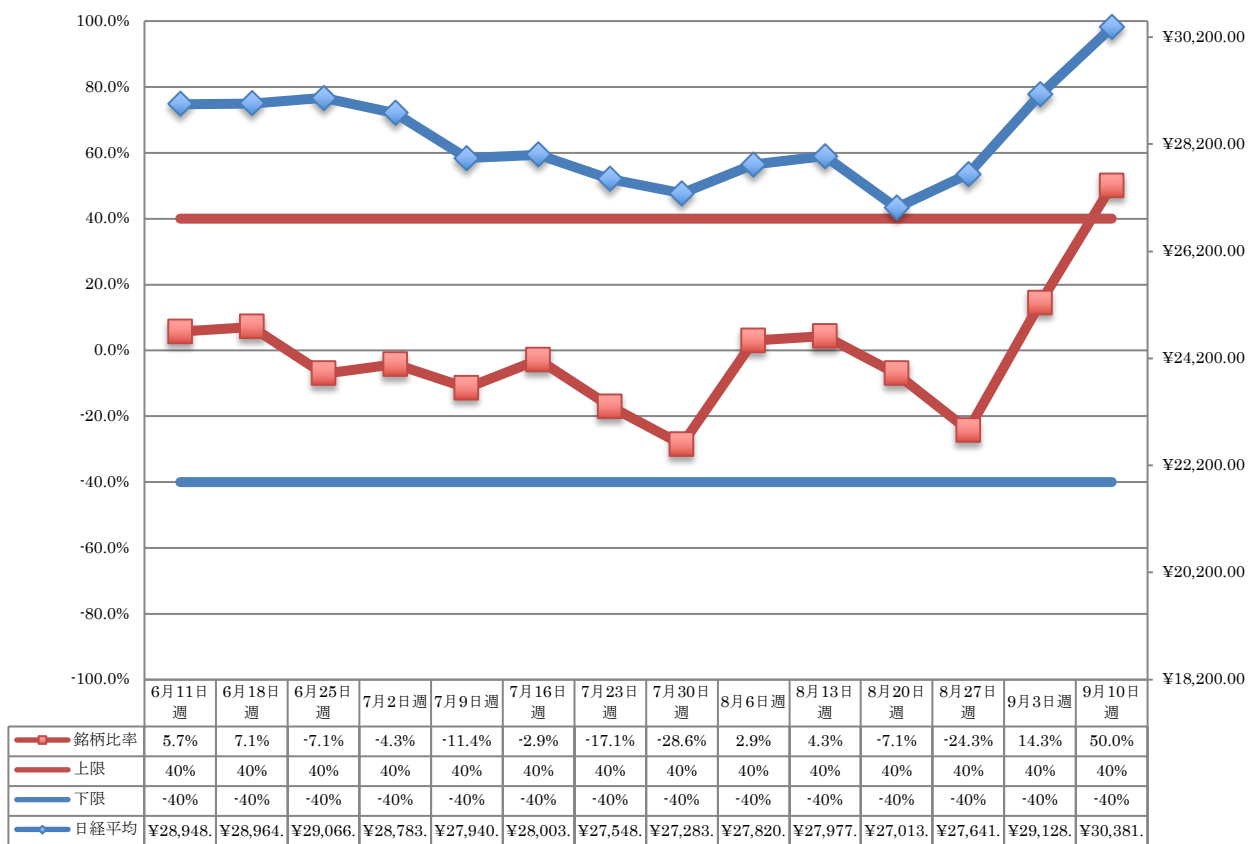


	8月27日週	9月3日週	9月10日週	9月17日週
上値上	¥130.31	¥130.43	¥132.35	¥132.71
上値下	¥129.02	¥129.14	¥131.04	¥131.40
下値上	¥128.05	¥128.05	¥129.52	¥130.00
下値下	¥126.76	¥126.76	¥128.22	¥128.70
ユーロ円	¥129.51	¥130.38	¥129.87	
高値	¥129.65	¥130.67	¥131.04	
安値	¥128.22	¥129.50	¥129.48	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年7月2日週-4.3%→7月9日週-11.4%→7月16日週-2.9%→7月23日週-17.1%→7月30日週-28.6%→8月6日週+2.9%→8月13日週+4.3%→8月20日週-7.1%→8月27日週-24.3%→9月3日週+14.3%→9月10日週+50.0%と、2週連続プラス圏に急浮上、かつ3月15日週47.1%以来となる上限ゾーンまでの一気の上昇となっています。「選挙相場」を利用した売り方の買い戻しを狙った買い仕掛けで急反発となりましたが、同指標を見ても株価の底入れ途中にして株価操縦で急反発したかたちとなっています。同指標が「-40%以下の下限ゾーン」に落ち込まないと株価の底打ちはないとの認識が必要であり、今回の「選挙相場」が終了すると再び、下落する近未来が待っていることを忘れないことです。また前の週末に急落したNYダウのT2レーティングが21年7月2日週以来、2ヶ月振りに売り転換となったことには注意が必要です。この時は2日間で1000ドル安の急落が7月中旬に発生しているためです。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。